

1. はじめに

今年度は、池田 積先生（唐津工業高校長）を新しく本専門部部長にお迎えし、また委員として田中修司先生（致遠館高）に加わって頂きました。特に田中先生は、日本陸連の JTO (japan technical officials) として活躍されている方で専門部としても心強い限りであります。本年度も佐賀陸協に競技運営面、また選手の競技力向上にご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

2. 今年度を振り返って

本年度の全国高校総体北九州地区予選会（長崎）では、男子 100 m で野上雅弘（佐賀学園 3 年）が 10” 63 (+ 0.9) で、男子走幅跳で小森貴仁（龍谷高 3 年）が 7 m 51 (+ 1.2) で、ハンマー投げで吉田一博（唐津南高 3 年）が 55 m 92 で、女子 100 m で萩原千春（佐賀北高 3 年）が 12” 16 (+ 0.9) で、女子 4 × 100 m R で佐賀北高が 47” 12 で見事優勝を飾りました。年度当初の目標であった「北九州地区予選会で 5 種目の優勝を」を達成し、専門部の競技力向上の取り組みの成果が確実に現れつつある事を実感しました。

しかし、本番の全国大会では、入賞者なしの結果に終わり、「全国大会で複数の入賞者を」という一歩ステップアップした目標に置き換え、地道に競技力向上への取り組みを継続していきます。

シーズン後半の、九州新人陸上（長崎）では優勝者が横畑安笑（佐賀清和高 2 年）1 名と来年度に向けて苦しいスタートとなりました。佐賀陸協強化部と本専門部とタイアップしてさらに取り組みを強化していく必要があります。

駅伝競走では、年末の都大路を鳥栖工業高と佐賀清和高が走りました。今年度は記念大会でレベルが上がった大会となった中、鳥栖工業高は 2 時間 05 分 22 秒で第 14 位、佐賀清和高は 1 時間 15 分 45 秒で第 55 位という結果に終わりました。しかし、鳥栖工業高の第 4 区を走った宗直輝が本県 13 年振りの区間賞（23 分 17 秒）を獲得。存在感を強くアピールしました。

3. 最後に

専門委員長 7 年目を終え、競技力向上をはじめとする山積の課題が大分見えるようになってきました。佐賀陸協、佐賀県体協、佐賀県高体連事務局等のサポートを頂き来年度も頑張っていきたいと思っております。

「高校時代に佐賀で陸上競技をやっていてよかった」と本県高校生アスリートが思っ
て貰えるような各現場での部活動を支えていきたいと思っております。